

第3学年1組 体育科学習指導案

1 単元名 ハンドベースボール

2 運動の特性（機能的特性）

攻守を規則的に交代して、ティーに乗せたボールを素手で打ち、ベースを回って得点したり、素早くボールを運んで相手の得点を防いだりして、勝敗を競うことが楽しい運動である。

3 児童の実態

～省略～

4 実態の考察

A 運動の楽しさの体験状況について

本学級のほとんどの児童が、「運動するのが楽しい。」「体を動かすのが好き。」という理由から体育が好きだと答えている。しかし、今までの体育学習から「できる技が少ない。」という理由で1名があまり好きではないと答えている。

休み時間や学級レクでは、ドッジボールなど、ボールを用いた遊びをすることが多く、ボール運動に対する関心が高い。ただし、外野に出たボールを激しく取り合ったり、勝ちを意識してボール運動が得意な児童だけがボールを多く触れたりする場面が見られる。

実態調査のゲーム（ハンドベースボール）を行い、その後にアンケートを実施した。「ハンドベースボールは好きですか。」という質問に対して学級のほとんどが好きと答えた。得点を取れたことが一番の理由で、ボールを打つ・投げる楽しさや心地よさを感じている児童がいることが分かった。その一方で、ボールを捕ったり、チームで協力して相手の得点を防いだりする楽しさにほとんどの児童が気付いていないことも分かった。ハンドベースボールの楽しいと思うときを聞いた質問では、得点を取ったときと答えた児童が一番多く、次にボールを投げるとき、手で上手く打てたときという回答が続いた。得点を取れた喜びを感じている児童が多く、ここでも、守りの楽しさを感じている児童が少ないことが分かった。ハンドベースボールが楽しくないと思うときを聞いた質問では、ボールを上手く打てなかったときと答えた理由が多く挙がった。2つの質問から、点数を取ることや上手くボールを打つことが児童の意欲につながるということが分かった。

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

「自分に合っためあてをもつことができますか。」という質問では、28名が「いつももてる」「もてる」と答えている。これまで、鉄棒運動やマット運動の学習でもめあてをもつ際には、掲示物やギガタブを使って練習の場や用具、技のポイントを確認しながら行ってきた。1人では、めあてをもてず、支援が必要な子も複数人いた。活動中には、めあてを意識して組み合わせる技を掲示物で確認しながら、学習する姿が多く見られたが「忘れることがある」と答えた児童が6名いた。

「友達のよいところを伝えることができますか。」という質問では、17名が「誰とでもできる」と答えているが、13名が「仲のよい友達とならできる」と一定の友達としか伝え合うことができない児

童がいることや、友達に何を伝えたらよいか分からず、伝えることができない児童がいることが分かった。「学習で困ったときや、うまくいかないとき、どのように解決しますか。」という質問では、「友達のよい動きを見る」「手本を見る」「友達に聞く」といった友達とのかかわりを必要としていることが分かった。

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

実態調査では、ジュニアサッカーボール（サイズ3）をティーに乗せて1人3球ずつ左右90度に向けた場に向けて打った飛距離とファールの回数、様子を見取った。初めての経験で慎重になっていたり、手のひらや指先でボールを打ったりしたためにボールに上手く力が伝わらず、飛距離が伸びなかった児童が多かった。また、遠くに打とうと大きく振りかぶってボールから目線が外れて牛乳パックを打ってしまう児童が10名程度見られた。

捕ることの実態調査では、18名がボールの正面に移動して捕球することができなかった。上体はそのまま、左右に手を伸ばして捕球する姿が多く見られた。ボールの正面に移動してボールを捕球することができた児童でも、捕球するために崩れた体勢から、投げる体勢にするまでに時間がかかってしまう姿が見られ、ボールを捕ってから次の動きを意識できている児童が少ないことが分かった。

投げることの実態調査では、投げる手と同じ足を一歩前に踏み出してボールを投げている児童が9名いることが分かった。また、その児童の多くが両手投げということが分かった。野球を習っている児童が3名で見本となる動きができそうなことが分かった。投げるでもボール運動が得意な児童と苦手な児童の差が大きく見受けられた。それぞれの観点で個々の実態差が大きく、打つ・捕る・投げるときの動きのポイントを知ることや経験が必要であることが分かった。

実態調査のゲームでは、外野にアウトサークルを1つ設定してゲームを行った。ボール運動が得意な児童を中心に、半数以上が意欲的にボールを手で打ったり、ボールを打った後に素早く走ったりする姿が見られた。しかし、2打席目には、弱く手前に打ち、高得点を狙おうとする児童が複数見られ、相手チームからは不満と疑問の声が上がった。守りでは、ボールを追いかけて団子状態になったり、ルールを理解できずにその場で立ち尽くしたりする姿が見られた。ボール運動の得意な児童が守りでも活躍し、ゲーム中にボールを1度も触れることができないという児童もいた。

5 研究の視点と学習の手立て

（1）市教研体育部の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

（2）研究の視点と手立て

視点1 課題を見付け解決できる学習過程と指導内容の明確化

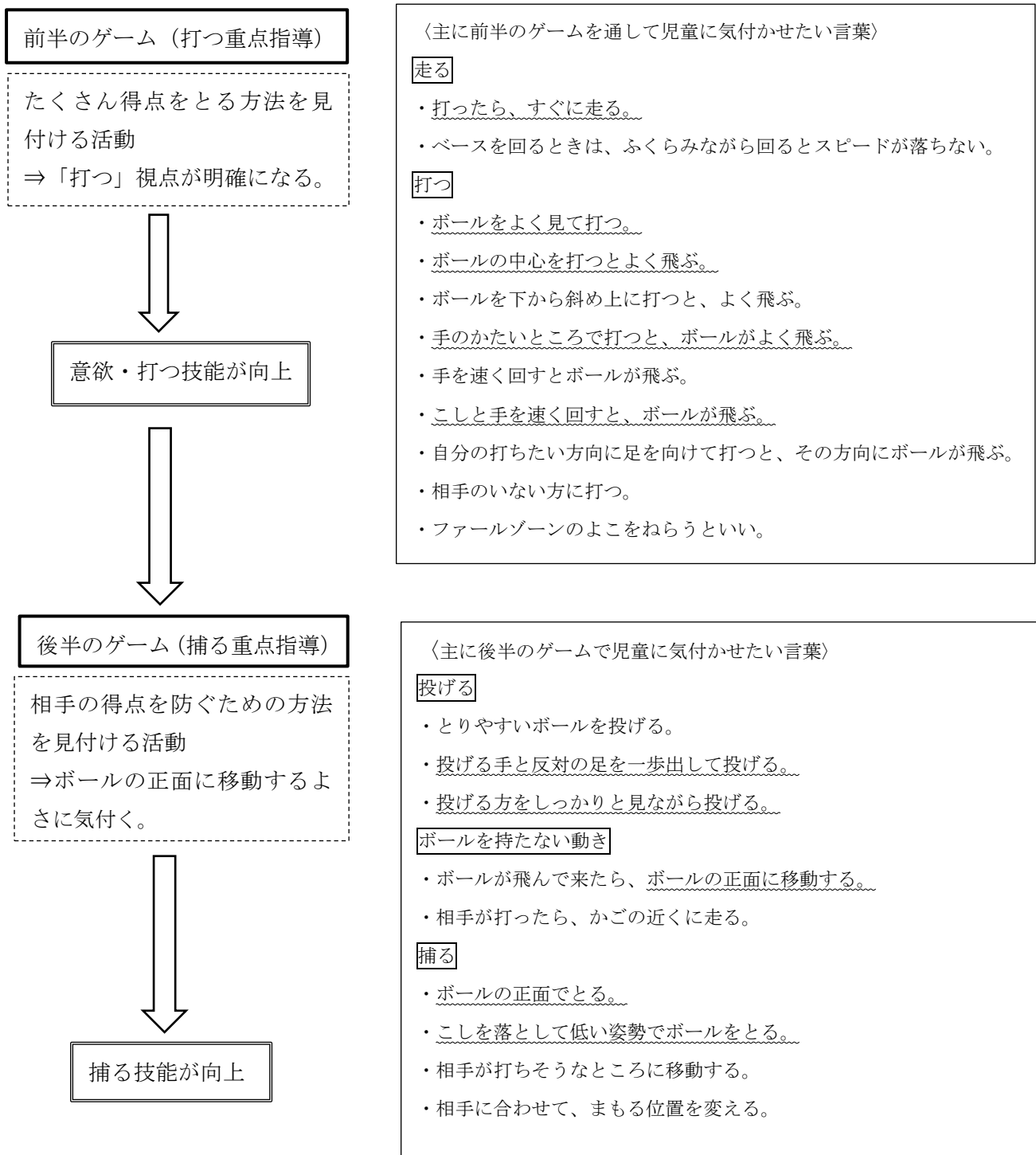
<手立て>

○ 指導内容を明確化した学習過程の工夫

2年生までの「遊び」の中で身に付けた技能には個人差があり、運動の習い事の経験も異なり、その差は大きい。本単元では、どの児童も楽しく学習することができるように前半に「打つ」を重点に指導を行っていく。遠くにボールを飛ばす楽しさや心地よさを感じさせることで、意欲的に学習に取

り組むことができると考えた。

ゲームを行った気付きから「たくさん得点をとる方法」を学級でまとめていくことで、ボールを打つときの視点が明確になり、打つ技能を高めることができるだろう。学級全体で打つ技能を向上させることで、守備の大切さにも気付く児童が出てくると予想する。そこで、後半のゲームでは、「相手の得点を防ぐための方法」を見付け、まとめていきたい。上手な友達の姿やゲームを通しての気付きから技能のコツをバディチームで見付けて学級全体に広げていくことで、どの児童も意欲的に活動を行う中で技能を高められるだろう。



前半のゲームを通して、打つ技能が学級全体で高まることで、捕る・投げるの技能の大切さに気づき、後半のゲームでは、捕る・投げるを意識したゲームができるだろう。

また、打つ・捕るを分けて重点指導を行うことで、中学年の児童でも学習内容が明確になり、ゲームに必要な技能を高めることができるだろう。

視点2 さらに運動が楽しくなるかかわり合いの工夫（人、ものとのかかわり合い）

<手立て>

○ バディチームを通しての高め合い

本単元では、ゲームに参加している実感や楽しさをより味わえるように、チームの人数を少なくして、役割を明確にしたり接球回数を増やせるようにしたりする。しかし、チームの人数が少なくなることでお互いの動きを見合ったり、見付けた動きのよさや課題を伝えたりすることにチーム差がでてしまうことが考えられる。

そこで、本単元のゲームでは、4人（5人）のチームを8チーム作り、2チームをバディチームとして設定する。対戦相手との勝敗だけでなく、バディチームの合計得点で順位を決定することで、バディチーム同士で打つ方を高め合う必要性に気付かせたい。勝つことだけにこだわる姿が見られた際には、みんなで楽しむことを全体で再度確認し、勝ったチームが負けたチームにどんな言葉をかけていけばよいのか場面ごとに指導し、考えさせていきたい。

バディチームは、つながる運動とゲーム後の振り返りを一緒に活動する。つながる運動では、互いの動きを見て、見付けた動きのよさや課題を伝え合ったりする姿を目指したい。振り返りでは、ゲームを通して上手くいったことを中心に話し合いながら、「たくさん得点をとる方法」や「相手の得点を防ぐための方法」をバディカードにまとめていく。チームごとに色分けした付箋を使うことで、それぞれのチームの工夫にも気付かせていきたい。ゲームで自分たちが行った工夫を、言葉や絵にしてバディチームに伝えて、付箋をためていたり、学級に広げたりすることで、よりゲームに必要な知識・技能を高め合うことができるだろう。1つのバディカードにまとめることで、バディチームとのつながりをより意識することができると思う。バディチームでよい動きをみんなで認め合ったり、励まし合ったりすることで、さらに意欲的にゲームに取り組むことができるだろう。

○ 楽しさを味わうための用具や場の工夫

ボール

ハンドベースボールの学習を、どの児童も楽しく学習するためには、まずは素手で打ったときの痛さを軽減する手立てが必要だと考えた。今回、打つ楽しさを味わわせることで、意欲的に活動することができると考え、軽くて飛びやすく、打ったときの痛みが少ないジュニアサッカーボールを採用した。



ジュニアサッカーボール（サイズ3）

アウトかん

今回、投げる・捕るを意識させるために、アウトかんを採用する。アウトかんに遠くから投げ入れることは難しいので、アウトかんの近くにボールを受け取って入れる動きが必要になると考えた。アウトかんの近くにいる友達に取りやすいボールを投げたり、その友達をカバーしたりする動きも学習の広がりとして期待する。

また、アウトかんを内野のホームサークル内に置くことでより、ボールを遠くに飛ばすメリットが生まれ、思いっきりボールを打とうとする児童が増えるだろう。そして、遠くにボールを飛ばす児童が増えることで外野の動きが必要になったり、内野の友達に投げてアウトにしようとしたりする動きが表れるだろう。

アウトかんは、ボールを入れたときにはみ出ないように、深さのあるものにし、ステンレス製のカンを採用した。加えて、内部に2本のゴム紐に4つの鈴を結び付けてボールが入った際に、より音が鳴るように工夫した。そうすることでアウトにする際、ボールを入れる楽しさを感じることができたり、判定のしやすさにつながったりすると考えた。



アウトかん



アウトかん（内側）

自分に合った高さ（マイティー）

本単元では、市販のティーを使わずに三角コーンに紙パックをのせた手作りのティーで学習を行う。自分の身長と三角コーンの高さから自分の腰の高さぐらいのティーを個人で作成する。マイティーを作成することで、ボールを打ちやすくなったり、飛距離が伸びたりして、意欲的に学習に取り組むようになるだろう。



紙パックのティー



実際のティー

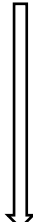
6 学習のねらい

- (1) ハンドベースボールの行い方を知るとともに、基本的なボール操作と、ボールの飛球方向に移動するなどのボールを持たないときの動きによって、攻守を交代する易しいゲームをすることができるようになる。（知識及び技能）
- (2) 自分の力に合っためあてを立てたり、動きについて考えたことを友達に伝えたりすることができるようになる。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① ハンドベースボールの行い方を理解している。	① 自分に合っためあてを立てている。	① ハンドベースボールに進んで取り組もうとしている。
② ボールをフェアグラウンド内に打つことができる。	② 友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	② 規則を守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。
③ 向かってくるボールの正面に移動することができる。		③ 準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。
④ 投げる手と反対の足を一歩前に踏み出して投げることができる。		④ ゲームの勝敗を受け入れようとしている。
		⑤ 場や用具の安全を確かめている。

8 学習の道すじと評価計画（本時6／7）

	1	2	3	4	5	6（本時）	7
学習のねらい	ねらいを知り、学習過程への見通しをもつ	打つ楽しさ、得点をとる喜びを味わわせる。			ボールを捕る楽しさや協力して相手の得点を防ぐ楽しさを味わわせる。		
0  45	オリエンテーション ・学習過程や約束の確認 ・準備や片付けの仕方 ・安全面について ・ルール、バディチーム ・つながる運動 ・試しのゲーム ・カードの使い方	準備運動、主運動につながる運動（バディチーム） 等					
		やさしいルールでハンドベースボールを楽しむ					
		前半のゲーム （4チームに分かれてゲームを行う。） <u>主に打つを重点指導</u>			後半のゲーム （バディチーム以外のチームとのゲーム） <u>主に捕るを重点指導</u>		
知・技	① （観察）			② （観察・カード）	④ （観察・カード）	③ （観察・カード）	② （観察・カード）
思・判・表		② （観察・カード）	① （カード）		① （カード）	② （カード）	
態度※	③ （観察・カード）	② （カード）	④ （観察・カード）	⑤ （カード）			① （カード）

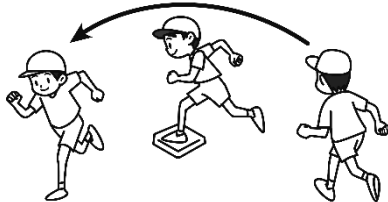
※主体的に学習に取り組む態度

9 指導計画と教師の支援（本時 6 / 7）

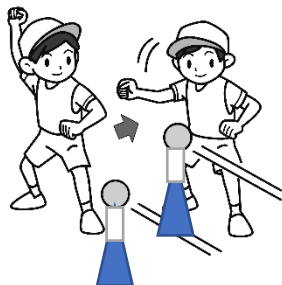
	学習内容と活動	教師の指導（○）支援（◎）評価（◆）
はじめ (第1時)	1 場づくりをする。 ○用具の使い方、場の準備や片付けの仕方、安全について理解する。 ・ビブス、得点板、マイティー、ベース、コーン	○チームごとに協力して場づくりをするように声を掛ける。 ◎コート の場所を指し示したり、準備するものを提示したりすることで見通しをもって準備できるようにする。 ○全体で確認して、次時からも同じ場所の場づくりを行うことを伝える。 ◎学習の見通しが視覚的に分かりやすくするために拡大資料を提示して指導する。 ◎対戦表や結果表を提示しながら、バディチームが味方であることを理解させる。 ○ハンドベースボールで使う部位を意識して行うように声を掛ける。 ○基本的な動作（打つ、捕る、投げる）を1つ1つ教え、正しい運動の行い方を理解できるようにする。 ○全体でルールを確認する。
	2 単元の見通しをもつ。 ・学習の進め方 ・バディチーム ・マナー、約束 3 準備運動をする。 4 つながる運動をする。 ・ベースランニングリレー ・バウンドキャッチボール ・ホームランダービー 5 ルールについて知る。	
	（基本のルール） ・1チーム、4・5人。 ・試合は2回の表裏。2回の攻撃は、勝っているチームから行う。 ・打順が一巡したら攻守を交代する。 ・試合中の守備の人数は、4人。5人チームは、1回の守りが終わったら試合に出ていないメンバーと交代する。守備位置は、ローテーションする。 ・アウトかんにボールを入れればアウト。アウトかんを持って運んだりしてはいけない。 ・フェアグラウンド内に打つ：1点、1塁：2点、2塁：3点、3塁：4点、ホームサークル5点（最大5点） ・ファールやホームサークル内で止まった場合は打ち直す。打者がボールを打つまでホームサークルには誰も入らない。	
	6 バディチームで試しのゲームをする。 7 学習カードの書き方について理解する。 8 片付け、準備運動をする。	◎行い方が分かっていない児童いた場合は、試合を一旦止めて、行い方の確認をする。 ○めあての立て方、振り返りの仕方を確認する。 ○協力して、片付けを行うように声をかける。 ◆ハンドベースボールの行い方を知っている。 【知識・技能①】 ◆準備や片付けを、友達と一緒にしようとして いる。 【主体的に学習に取り組む態度③】

- 1 学習の場づくりをし、準備運動を行う。
- 2 バディチームごとにつながる運動を行う。

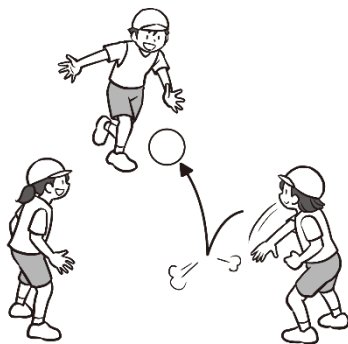
・ベースランニングリレー



・ホームランダービー&キャッチパス
(打つを意識して行う)



・バウンドキャッチボール



- 4 本時のめあてと学習の進め方を確認する。
- 【選択させるめあての例】
- ・ボールをよく見て打つ。
 - ・手をはやく回して打つ。
 - ・ボールを打つときの手に気をつけて打つ。

- 協力して素早く準備ができるように声を掛ける。
- 指先、手首、肩など学習でよく使う部分を意識させながら行うように声を掛ける。

◎ベースを回るときにスピードが落ちてしまう児童には、速く走っている児童を見本に取り上げて、膨らみながら走っているところや内側に重心を傾けながら走っていることに気付けるようにする。

◎上手くボールを打てていない児童には、上手にボールを打つことができている友達の姿や友達のアドバイスから打つときの目線や手のかたいところで打つことに気付かせる。

○上手にボールを打ち、遠くにボールを飛ばせる児童には、友達にどうすれば飛びやすくなるかコツを伝えるよう声を掛ける。

○ボールをキャッチすることが苦手な児童もいるので、どの位置でバウンドするボールを投げればよいか全体で確認する。

◎投げる方向が定まらなかったり、捕ることが難しかったりする児童には、短い距離から始めるように声を掛ける。

○身に付けたい動きができていない児童を積極的に称賛する。

○初めは、いくつかのめあての中から選ぶようにし、慣れてからは自分でめあてを書くようにする。

○自分のめあてを何人かに発表させて、自分がどう動くべきかが明確になっているか確認する。

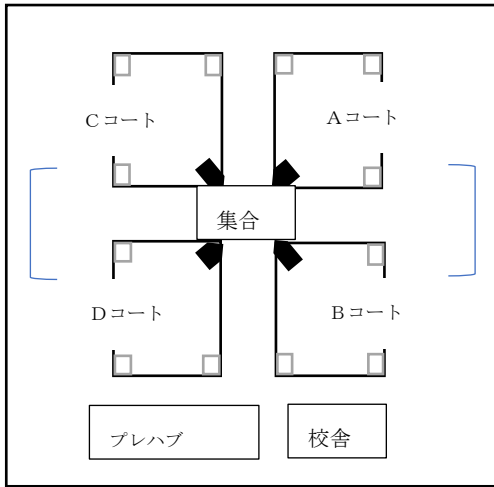
◆自分に合っためあてを立てている。

【思考・判断・表現①】

やさしいルールで、ハンドベースボールを楽しむ。

5 ゲームを行う。

学習の場



おゆみ野リーグ

	赤	黄	緑	ピンク	得点 (合計)
赤					
黄					
緑					
ピンク					

扇ダックリーグ

	オレンジ	蛍黄	青	紫	得点 (合計)
オレンジ					
蛍黄					
青					
紫					

6 学習の振り返りをする。

- ・ゲームを通して気付いたコツを付箋に書く。
- ・バディチームで振り返り、バディカードにまとめる。学習カードに振り返りを描く。

話し合いの視点

- ・めあては達成できたか。
- ・誰のどんな動きがよかったか。
- ・たくさん得点をとるために工夫したことはなにか。
- ・上手くいったことの紹介。

7 整理運動をして、後片付けを行う。

○ゲームの開始と終了のときには、全員で気持ちのよい挨拶をするように声を掛ける。

○ルールやマナーを守っている児童や得点につながるプレーをしている児童を称賛する。

◎なかなか得点することができないチームや児童には、ボールを最後まで見ることや、手のかたいところを使って打つなど、打ち方の助言をする。

○ミスには、「ドンマイ」「大丈夫」「いいよ」と声かけを行うとよいことを伝える。

◆ボールをフェアグラウンド内に打つことができる。 【知識・技能②】

◆友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。 【思考・判断・表現②】

◆きまりを守り、誰とでも仲良く励まし合おうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度②】

◆ゲームの勝敗を受け入れようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度④】

◎付箋をかくことが難しい児童には、今日のゲームを一緒に振り返り、頑張っていた友達の姿から気付けるように声を掛ける。

○話し合いがスムーズに行われているか巡回し、適宜助言する。

○ゲームで工夫したことや気付いたコツ等をかいた付箋をもとに、バディチームで伝え合う。

○バディチームで振り返りを行うことでお互いの頑張りを認め合えるようにする。

○ボールを遠くに打つことができたかを確認し、できた児童を称賛する。

○試合を通して困ったことがないかを確認する。

○怪我がないか確認しながら、整理運動をする。

○協力して片付けをするように声を掛ける。

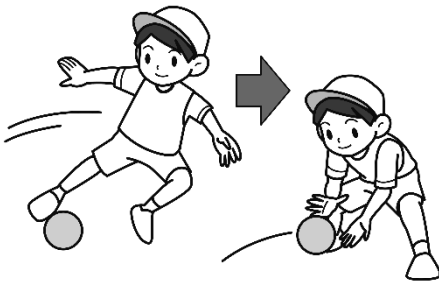
◆場や用具の安全を確かめている。

【主体的に学習に取り組む態度⑤】

1 学習の場づくりをし、準備運動を行う。

2 バディチームごとにつながる運動を行う。

- ・ベースランニングリレー
- ・バウンドキャッチ
- ・ホームランダービー&キャッチパス
(捕るを意識して行う)



4 めあてを確認する。

【選択させるめあての例】

- ・ボールをよく見て、打つ。
- ・うでをはやく回して打つ。
- ・ボールを思いっきり打つ。
- ・ころがってきたボールを両手でとる。
- ・ボールをよく見てとる。

○協力して素早く準備できるように声を掛ける。

○指先、手首、肩など学習でよく使う部分を意識しながら行うように声を掛ける。

○ゲームとのつながりを意識して運動が行えている児童を称賛する。

◎コートを巡回し、ボールの正面に移動することができなかつたり、投げる手と反対の足を一歩出して投げられなかつたりする児童には、個別で守り方や投げ方を助言する。

○友達の動きを褒めたり、友達にアドバイスしたりしている児童がいれば積極的に称賛する。

◆友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。

【思考・判断・表現②】

○上手く守ることができないチームや児童には、捕球の仕方や守備位置について助言する。

○よいプレーやアドバイスをしているチームを称賛する。

◎初めは、いくつかのめあての中から選ぶようにし、慣れてからは自分でめあてを書くようにする。

○選択させるめあては、前半のゲームでの児童の気付きを生かした言葉にすることで、より具体的なイメージをもってめあてを立てられるようにする。

○めあてを何人かに発表させることで、自分のめあてを想起させる。

◎自分のめあてを忘れてしまった子には、学習カードを見返すように声を掛ける。

◆自分に合っためあてを立てている。

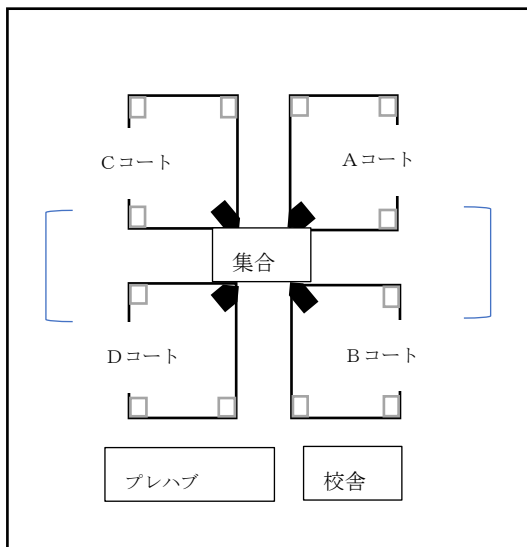
【思考・判断・表現①】

やさしいルールで、ハンドベースボールを楽しむ。

5 ゲームをする。

	赤	オレンジ	黄	蛍黄	緑	青	ピンク	紫	得点(合計)
赤									
オレンジ									
黄									
蛍黄									
緑									
青									
ピンク									
紫									

学習の場



6 学習の振り返りをする。

- ・ゲームを通して気付いたコツを付箋に書く。
- ・バディチームで振り返り、付箋を紹介しながらバディカードに張る。

○ゲームの開始と終了のときには、全員で気持ちのよいあいさつをするように声を掛ける。

○ルールやマナーを守っている児童を称賛する。

◎上手く守ることができないチームや児童には、捕球の仕方や守備の位置について助言する。

○ボールの正面に移動して捕球したり、捕球したボールを友達に投げたりしている児童を積極的に称賛する。

◎相手の捕りづらいボールを投げている児童には、最後まで投げたい方向を見ることがやどんなボールが相手の捕りやすいボールかを考えさせ、捕りやすいボールを投げるように助言する。

○打者以外でホームサークルに近づいている児童がいた場合は、安全面についてもう一度確認し、ベンチで自分の打席まで待つように指導する。

○ミスした友達には、どんな言葉をかけるとよいかを思い出させ、教師も積極的に「ドンマイ」「大丈夫」「いいよ」と声を掛ける。

◆投げる手と反対の足を一步前に踏み出して投げている。 【知識・技能④】

◆向かってくるボールの正面に移動することができる。 【知識・技能③】

◆ボールをフェアグラウンド内に打つことができる。 【知識・技能②】

◆ハンドベースボールに進んで取り組んでいる。 【主体的に学習に取り組む態度①】

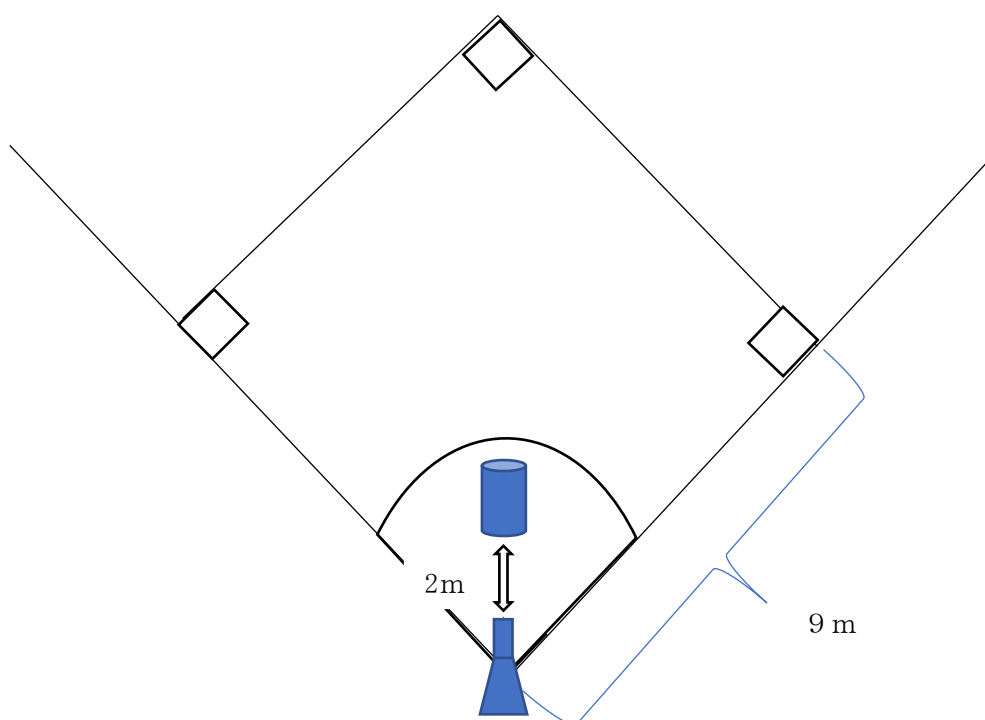
◎付箋をかくことが難しい児童には、今日行ったゲームを振り返らせ、頑張っていた友達の姿をかいてもよいことを伝える。

○バディチームで振り返りを行うことで、お互いの頑張りを認め合えるようにする。

○話し合いがスムーズに行われているか巡回し、適宜助言する。

	・学習カードに振り返りをする。 ・次時のめあてを考える。 話し合いの視点 ・めあては達成できたか。 ・誰のどんな動きがよかったか。 ・相手の得点を防ぐために工夫したことにはなにか。 ・上手くいったことの紹介。 7 整理運動をして、後片付けを行う。	○本時の学習を振り返り、めあてが達成できたか確認する。 ○友達と協力して相手の得点を防ぐことができたかを確認し、できた児童を称賛する。 ○学習で困ったことはないか確認をする。 ○次時の活動の確認をし、見通しをもたせる。 ○怪我がないか確認しながら、整理運動をする。 ○協力して片付けをするように声を掛ける。
ま と め	【学習のまとめ】 ○ハンドベースボールの行い方を知るとともに、ボールを打ったりする攻めや捕ったり投げたりする守りなどの基本的なボール操作と、ボールの飛球方向に移動するなどのボールを持たないときの動きによって、攻守を交代する易しいゲームをすることができたか。 ○自分の力に合っためあてを立てたり、動きについて考えたことを友達に伝えたりすることができたか。 ○運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全について気を付けたりすることができたか。	

10 資料（場）



ホームサークルは半径 4 m